

心のユニバーサルデザイン

障害者の目線

車椅子の生活

車椅子生活を始めて18年になる早瀬さん。車椅子を使用することになったのは、交通事故が原因でした。

「今でこそいろんな障害を持った人が外に出てるけど、昔は車椅子の人が外に出なかった。外出が不便というのもあつた。」

たし、人の目が気になるのもあつたらうね。自分と同じように車椅子を使っている人を見かけたら安心してたな。見慣れるのも大事だから、私たちもどんな外に出ないといけないね。今の子どもたちは『おぼちゃんどしたん、押したげよか』って声かけてくれて、ちっとも不思議な目で見たりしない。不思議な目で見られるのと、あの人は障害者だから別って言われるのは嫌だからね」

外出することが増えたという早瀬さんは、まちの施設も昔と比べるとよくなったと話します。

「車椅子だと、行けるところは限られてたけど、車椅子用のトイレも増えてきた。エミフルによく行くよ。トイレは広くて

ご存じですか？

障害に関するマーク

障害者に配慮した施設であることや、障害について分かりやすく表示するためのマークです。これらのマークを見かけたら、ご協力をお願いします。



障害者のための国際シンボルマーク

障害者が容易に利用できる建物、施設であることを示す



ハートプラスマーク

身体内部に障害があることを示す



視覚障害者のための国際シンボルマーク

視覚障害者の安全に考慮された建物、設備、機器であることを示す



身体障害者標識

肢体不自由のある人が運転する車であることを示す



聴覚障害者シンボルマーク（耳マーク）

聞こえが不自由であることを示す



聴覚障害者標識

聴覚障害のある人が運転する車であることを示す

現在、町内には障害者手帳を持っている人が1,481人います。そして、その中には「地域で暮らす」という、当たり前の生活に不便さを感じている人も少なくありません。

誰もが、このまちで幸せに暮らすためには、すべての人に配慮されたユニバーサルデザインが必要です。

今回の特集では、このまちに暮らす障害者と支援者の目線を通して、ユニバーサルデザインについて考えます。